

株式会社ファブ

土 倉 侃

千葉県印旛郡富里町中沢346

国際空港をかかえる町、成田山新勝寺をこよなく愛する町、成田市の隣の小さな町、富里に平成2年8月(株)ファブは誕生しました。設立と同時に種動物を導入し生産業務を開始しています。場所は東関東自動車道の富里インターを出て、国道409号線を東方向へ約4km、車で7～8分のところで、周囲はサツマイモ、ゴボウ、スイカなどの畑地と雑木林、田んぼに囲まれた静かな田園地です。動物を扱う地としては適地と思っています(写真1)。

当社の設立は(株)船橋農場の動物生産部門の業務拡大と拡充の計画実行より設立することとなりました。この計画の内容は①動物部門を分離するとともに別会社とする(分離、独立させ業務一新を計る)。②施設を新設する(新しい地に施設を建て、施設は完全バリアーなものとする)。③生産性と品質の向上を計る(生産数を増加させるとともに、生産する動物、取扱う動物は全てSPF動物とする)。④生産数及び動物種の目標を設定する(ウサギ700匹～800匹/月、モルモット4,000匹/月、その他疾患モデル動物を取扱う)。⑤業務環境の改善を行う(施設、設備を新しくするとともに、働きやすい、作業しやすい環境をつくる)。などが主な計



写真1 株式会社ファブの動物生産施設の全景

画内容であり、目標としました。又、GLP規則施行により、飼料の製造工場と動物の生産場が同一敷地とすることは好ましい環境ではないというように拡充計画とGLP規則等より、分離して新しい会社として、気持ちを新たにして、業務意欲の向上が計れるならばと考えています。

設備・施設

動物生産棟、事務管理棟、空調機械棟、出荷電気棟の4棟と附滞設備として排水浄化設備、動物処理専用炉、滅菌機器等があります。全施設の建物は、作業性を重点とした考えより、平家建となりました(図1)。

動物生産棟は、鉄骨ALC張平家建。建物の周囲は幅2mの犬走りとU字溝を設け、作業用の通路として使用するとともに、オープンエリアとバリアーエリアの境界としています。ここを準バリアーとしている。この施設の仕様は、外壁、内壁、天井は防水アクリルペイント吹付け、床は防水ノンスリップゴムペイント塗り仕上げとして、室内全体を水洗い、薬液消毒が容易にできるようにしました。この棟は、ウサギ区、モルモット区、その他の区の3つに分け、さらにウサギ区とモルモット区は2つに分け、作業方法を1日1区制とし、万が一の汚染でも一区分だけで止められるように考えました。作業性をよくするため平家建としました。

事務管理棟は、一般事務と受注などの業務を行う事務室、来客の応待、打合せに使用する接客室、従業員が休憩、更衣などを行う休憩室、施設及び動物のモニタリングを行う検査室があります。鉄骨平家建、プレハブ造、空調機械棟は、空調の加温・加湿及びオートクレープの滅菌用蒸気としてボイラーを2基(故障時を考慮2基とした)設置したボイラー室、各室に清浄適温の空気を送る空

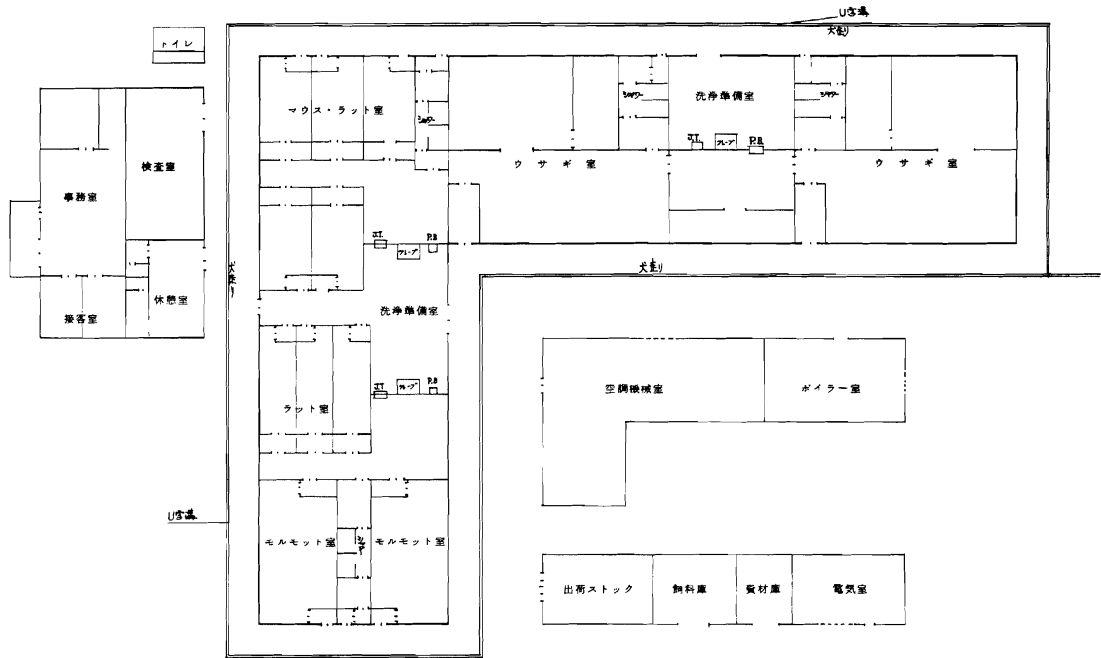


図1 施設の平面・配置図

調機を設置した空調機械室とがあります。鉄骨プレハブ造り平家建とし、保守管理、修理等が容易なようにした。

出荷電気棟は、出荷動物を一時保管する出荷ストック室(室内の仕様は動物室と同様)、放射線滅菌飼料を保管する飼料庫、ケージ、トレー及び給餌箱などの予備品、代替品を保管する資料庫、全施設に電気を供給する(非常時は自家発電機を使用)の電気室があります。動物の出荷、機械の保守等が容易なように平家建とした。

空調設備

設備の基本方針は、万が一の汚染対策、設備費及びランニングコストなどの経済性、保守、点検、修理が容易であることを基本としました。設備の仕様は次の様です。

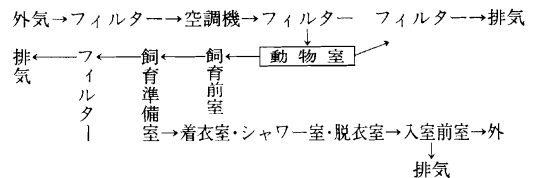
- 各室1～2台の空調機とした。一室一単位空調とした。
- 現行の動物室の設定温度は、ウサギ室19℃～22℃、モルモット室22℃～25℃、ラット室22℃～25℃としています。
- 全室温度管理は、18℃～28℃の範囲内で調整可

能とする。

- 湿度管理は、45%以上無調整とした。
- 換気回数は、8～10回/時とした。
- 導入空気は、オールフレッシュとし、中性能フィルターで除菌している。

このように一室一台の空調機にすることにより、設置費が安価である、温度管理が細分化でき電気油の使用がむだなく使うことが出来ました。

又、この施設の空気の流れは次のとおりです。



施設維持管理

社内の実験動物取扱作業安全基準を作成し、この基準に従って動物の管理、作業方法、入退室手順を決め実行しています。主な基準は次の様です。

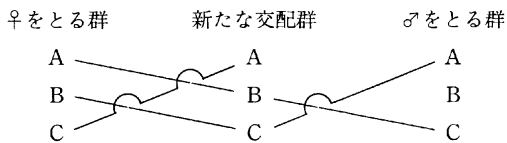
- バリアー内及び準バリアー内は毎月検査を行う。
- バリアー内及び準バリアー内への部外者は原則として立入禁止とする。

○休日及び夜間のように業務をしない日は、保安警備業者、設備保守業者と24時間の監視・保守の契約を結び、3ヵ月に一回の打合せ会と懇談会を行い業者に実験動物の使用目的などを話し、非常時の対応の重要性を説明し、又、実験動物の重要性も話しています。

生産方式

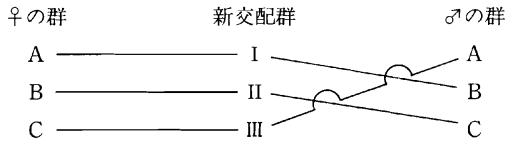
モルモット，系統 Fub : Hartley

三群循環方式で行っています。月産4,000匹目標。



ウサギ，系統：Fub : JW/CSK

種親は自社で作らず換月に導入する。月産の生産目標，700～800匹。



微生物モニタリング

施設については、バリアー内は毎月検査し、準バリアーの洗浄準備室も同様に検査をしています。動物については、次の項を2ヵ月に1回以上の自主検査を行うとともに業者に依頼検査を行います。

検査項目は、サルモネラ菌、パストツレラ、気管支肺炎菌、HVJ、ティザー菌、腸型コクシジウム、緑膿菌を行っています。

飲水については毎月無菌検査を行っています。飼料については自主で無菌検査を行うとともに、納入元でも検査をしてもらっています。

当社の微生物モニタリングは、飼育者全員が自分の管理する動物については各自でチェック出来るようにと考え、努力しています。もちろん、検査責任者によるチェックもしていきます。

以上、当社は(株)船橋農場と関係して実験動物関係に飼料と動物で少しでも協力できれば、そして使用する立場になって、使用者の要求に応じられるように努力していきます。